

名古屋アイリスロータリークラブ

RID2760 THE ROTARY CLUB OB NAGOYA IRIS
 ~ ローターに輝きを LIGHT UP ROTARY ~
 2014-15 年度国際ロータリー会長 ゲイリー C.K ホアン

例会日:毎週水曜日 13:00~14:00
 例会場:ANA クラウンプラザ グランコートホテル名古屋
 創立:2013 年 6 月 5 日
 会長:荒山 久美 「進化するアイリス」



- 斉唱 君が代、我等の生業
- 司会 安井嗣博 会員
- 出席者報告 出席者数 25 名 / 会員数 35 名
 出席率 71.42%
 前々回(第 86 回)修正出席率は 94.28% (33/35)

- 本日のゲスト・ビジター紹介
 (卓話者) 名古屋大学経済学部教授 荒山裕行 様
 名誉会員 名古屋栄 RC 八神 基 様
 名誉会員 名古屋北 RC 水野吉紹 様

- ニコボックス報告
 名誉会員 名古屋栄 RC 八神 基 様
 私が理事長をつとめている団体が展示会を開催いたします。案内状をお配りしますのでご来場下さい。
荒山久美 会長
 愚妻ならぬ愚夫が本日卓話をさせていただきます。
 よろしくお願いたします。
安井 忠 会長エレクト

5 月 10 日の母の日に息子二人の家族がそろってプレゼントを持って来てくれました。女房殿大変うれしそうでしたが、一言「誰も現金はくれないのね！」そんな中、次年度の地区研修会に皆様御出席いただき、感謝申し上げます。

櫻井孝充 副会長

荒山教授、本日は卓話よろしくお願い申し上げます

す。 さて、昨年クリスマス会に当たりました食事

券で、先日香楽さんで御馳走させていただきました。庭のスミズミまでいきとどいた掃除、名古屋一おいしい食事、心のこもったおもてなし、これも I. R. C みな様の御陰です。ありがとうございました。感謝。
藤森 淳 幹事

荒山教授 卓話お願い致します。

加藤正広 会員

先日の第 6 回チャリティゴルフ大会ありがとうございました。初めて、Y エレクトにグロスで勝ちました。スコアはとも言えません。うれしい〜
青木恭子 会員

体調がよくて感謝します。これからもよろしくおねがいます。

安井嗣博 会員

息子が日曜日に栄でカブスカウトでネパール義援金の募金集めをしていました。2 万円集まったそうです。

鬼頭容子 会員

荒山教授、本日は、辛口の卓話、期待しています。

■ 幹事報告

1. 5 月の例会について
2. 6 月 12 日 (金) アイリスゴルフ同好会コンペについて
3. ネパールの支援金について

4. 細川さん紹介会員の村田実樹さんについて

■ 会長挨拶

長かったGWも終わりました。次の国民の祝日は7月20日の「海の日」までありません。勤労は日本国民の義務のひとつですので、仕事モードONにして次のお休みの楽しみまで「生業」に勤しんでいただきたいと思います。とはいうものの、アイリスクラブの通常例会は先月4月15日以来ですので、ほぼ1ヶ月ぶりとなりました。

この前の日曜日ですが、5月10日に次年度用の地区研修・協議会がウェスティンナゴヤキャッスルにて開催されました。新しい会員さんもいらっしゃいますので、少しだけ説明致します。「地区研修・協議会」という催しは毎年この時期に開催され、次年度、つまり2015年7月1日から2016年6月30日の期間一当クラブでは次期会長である安井エレクトの年度期間にどのような奉仕活動が予定されているのか、或いは地区の催事を含めた活動の説明が8つの分科会に分かれて実施されます。ロータリアンとしての研修の場にもなっていますので、次年度ロータリー財団への出向が決まっている私にとっても、よい勉強の機会となりました。当クラブからは安井エレクトを含め11名が出席致しました。

設立2年未満の当クラブではありますが、年々進化していかなくてはいけないクラブですので、クラブ運営、及びクラブ奉仕が理解できるようになった会員さんからお声がかかった順に、この研修会にご参加いただきたいと思います。その担当に当たった会員さんには出席義務が生じますので、アイリスロータリークラブを代表しての参加をお願い致します。

因みに次年度のワールドフードフェスタは「ジャパンロータリーデー」となるらしく、開催日時は10月24日、25日の予定です。地区大会は翌週の10月31日、11月1日に開催され、ゲストスピーカーはJR東海名誉会長の葛西敬之（よしゆき）氏で、「東海道

新幹線とリニア中央新幹線」と題してタイムリーな講演が聴けそうです。

■ 卓話（名古屋大学経済学部教授 荒山裕行 様）

石を「貨幣」として使ったヤップの人々の行動
と『アベノミクス』

マネタリストでありリバタリアンであるミルトン・フリードマンシカゴ大学教授は、思想的にマーガレット・サッチャーのサッチャリズム、およびロナルド・レーガンのレーガノミクス等に大きな影響を与えた経済学者です。本日は、フリードマン教授の著書の中から「貨幣の悪戯」を取り上げ、その第一章に書かれたエピソードをご紹介します、そのエピソードと「アベノミクス」の関係についてお話をしたいと思います。



話は、ミクロネシアに浮かぶヤップ島から始まります。19世紀の半ばも過ぎた頃に、ビスマルク政権下のドイツは、ミクロネシア一帯を植民地としていたスペインからヤップ島での通商権を勝ち取ります。その後、米西戦争でスペインがアメリカに敗北したのを機にヤップ島をドイツが購入、第一次世界大戦の敗北まで統治が続きしました。

当時ヤップ島では、400km離れたパラオのバベルタオブ島で石灰岩を切り出しそれに細工を加えることで作られた石の貨幣（フェイ）が使われていました。この石貨は、直径40cmから4mの円形をしており、中央に棒を差し込むための穴がけられていました。このことを書き記した人類学者のハーネスによると、このフェイは、通常家の前に立てかけられており、支払や清算の度に動かされるようなことは

ありませんでした。それどころか、貸し借りの清算が行われたとえその所有者が入れ替わったとしても、貸し借りが互いに確認さえされていれば、それで事足り双方は満足したそうです。また、バベルタオブ島から切り出され、あいにくの嵐のため筏でヤップ島に運ぶ途中に海底に沈んでしまったフェイですら、確かにそのフェイが存在していたとする島民の証言に基づきそのフェイの所有者の家族数代にわたりそのフェイの財産的価値が認められ続けたそうです。



米西戦争に敗れたスペインからこのヤップ島を購入したドイツが、島に道路を建設しようとしていました。素足で歩くことで十分に事足りる島民は道路建設のインセンティブを持たずいっこうに建設作業は進みませんでした。これに業を煮やしたドイツ人は島民に罰金を科すこととし、家々の前に立てかけられているフェイに黒ペンキで「×」を付けて回りました。このことで、財産を失ったと信じた島民は、財産を回復すべく猛烈に働きだし、まもなく道路ができあがりました。フェイの上に描かれた「×」が消された時、島民はかれらの財産、つまり富が戻ってきたと安堵し喜びました。

ヤップ島のフェイを軸とする貨幣制度とこのエピソードは、いったい貨幣とは何かを改めて考える糸口となります。ヤップ島では、その石貨が、交換に便利だから使われたのではなく、それどころか、運ぶことすらできないからこと、それは貨幣としての機能を果たし島民の必要とする決済は順調に行われていたからです。

このことにまつわる貨幣論の詳細は、またの機会にお話をするとして、このエピソードが示す「アペノ

ミクス」の経済効果について考えてみましょう。「三本の矢」といわれる政策としての三本柱は提案されたものの、何らかの効果を上げたのは、「大胆な金融政策」のみです。そして、その金融政策とは、これまでのデフレを脱却するために、インフレーションを人為的に作り出そうとする試みでした。

言うまでもなく、インフレーションが起きれば、貨幣の購買力が低下します。インフレが10%進めば、一万円の実質価値は、9千円となります。これは、紙幣の10%が切り取られるのと同じことで、まさに、罰金としてフェイの上に黒ペンキで描かれた「×」と符合します。だから、われわれ日本国民はこれまでより多く働くことを選択したと考えられます。この結果として、失業率が低下したことになります。このことが短期的に日本経済を「好調」へと導きました。

すこし目を世界情勢に移してみますと、つい先日、中国が電光石火の如くにAIIB（アジアインフラ投資銀行）の設立を果たしました。ヤップ島のエピソードを思い浮かべながらこのことについて考えてみますと、これは中国が世界が認知するフェイの創出をめざす動きにほかならず、これがうまくいくと人民元が基軸通貨としての地位を持つことにつながるでしょう。これまでのアメリカドルを基軸通貨とするアメリカ主導のIMF体制に対する挑戦ということになります。

ご静聴、誠にありがとうございました。

■ 次回例会

第89回 5月20日(水)

※ 12:00～ 次期理事会

※ 次回卓話者

特別代表 名古屋北RC 浦野三男 様